

報道関係各位

2020年3月2日

国立大学法人 東京医科歯科大学

「動画視聴で赤ちゃんへの虐待を半減」 — 泣きへの対処に関する動画教材による揺さぶりと口塞ぎの予防を実証 —

【ポイント】

- 児童虐待による死亡事例の原因のトップは、赤ちゃんへの揺さぶりや口塞ぎなどの虐待であり、大きな社会問題になっています。
- その引き金になるのは赤ちゃんの泣きであり、泣きへの対処を教える動画によって予防できると考えられます。
- 厚生労働省が作成した「赤ちゃんが泣きやなまい」という動画を視聴させる実証実験をA市で行い、赤ちゃんへの虐待が半減できることがわかりました。

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科国際健康推進医学分野の藤原武男教授らと東京工業大学の宮崎祐介准教授の研究グループは、国立成育医療研究センターとの共同研究で、乳児虐待に多い揺さぶられ症候群*¹および口塞ぎを予防するために厚生労働省と共同で作成した動画「赤ちゃんが泣き止まない」を母子保健行政に取り入れ、赤ちゃんへの揺さぶり、口塞ぎを52%まで激減させられることを明らかにしました。この研究は厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 成育疾患克服等次世代育成基盤研究(H27-健やか一研究班及びJST RISTEX(JPMJRX16G5)の支援のもとでおこなわれたもので、その研究成果は、国際科学誌 Child Abuse & Neglect に、2020年1月13日にオンライン版で発表されました。

【研究の背景】

児童虐待による死亡事例検証では、4分の1が虐待による頭部外傷*²であり、その多くが乳幼児揺さぶられ症候群と考えられています。しかし、赤ちゃんを揺さぶってもその外傷が目に見えないため、より視聴者にとってインパクトのある、乳児の頭が揺さぶられることによってどうなるかをコンピューターグラフィックスによる解剖学的なメカニズムに基づいて示したビデオの効果検証を行う必要がありました。また、泣きに対して口塞ぎを行ってはいけないことを明示したビデオの効果検証もこれまでになく、行う必要がありました。

【研究成果の概要】

日本のA市における介入研究として、こんにちは赤ちゃん事業等において助産師、保健師、トレーニングさ

れたボランティアが産後2ヶ月時の家庭訪問で厚労省が作成した動画「赤ちゃんが泣き止まない」を視聴させるという介入を行いました。4ヶ月健診時において、対象となった産婦に動画の視聴状況、自己申告による揺さぶり・口塞ぎ行動状況、および他の状況（泣きの程度や産後うつ等）について質問紙で調査しました。動画視聴と自己申告の揺さぶり、口塞ぎとの関係について多変量ロジスティック解析を行い統計的に解析しました。合計で5961名の産婦が質問紙に有効回答をしました（有効回答率：73.8%）。解析の結果、動画を見た産婦は、乳児を揺さぶる割合が74%（オッズ比：0.36, 95%信頼区間：0.21-0.64）、口塞ぎの割合が43%（オッズ比：0.57, 95%信頼区間：0.37-0.89）、どちらかの乳児虐待は52%（オッズ比：0.48, 95%信頼区間：0.33-0.69）、低いことがわかりました。

【研究成果の意義】

乳児の泣きおよび解剖学的なメカニズムに基づく揺さぶりおよび口塞ぎの危険性に関する教育的動画は、産後4ヶ月時における自己申告の揺さぶりおよび口塞ぎを半減させる可能性が示唆されました。今後もこんには赤ちゃん事業等で厚労省が作成した動画「赤ちゃんが泣き止まない」を全ての産婦に視聴させることで虐待による頭部外傷を半減できる可能性があります。

【用語解説】

※1 乳幼児揺さぶられ症候群

乳幼児の泣きを引き金として、養育者が乳幼児の頭を激しく前後に揺さ振ることによって引き起こされる脳実質への損傷に関する一連の症状を呈している場合にこの症候群名を使う。医学の分野では、虐待の場合に揺さぶりのメカニズムを必ずしも伴わないこともあるため、広く虐待による頭部外傷と表現することが多い。

※2 虐待による頭部外傷

虐待によって引き起こされる頭部外傷の全般をさし、そのメカニズムは問わずに脳挫傷から頭がい骨の骨折まで、虐待による幅広い頭部への外傷を指す。

【論文情報】

掲載誌: Child Abuse & Neglect

論文タイトル: Effectiveness of using an educational video simulating the anatomical mechanism of shaking and smothering in a home-visit program to prevent self-reported infant abuse: A population-based quasi-experimental study in Japan.

【研究者プロフィール】

藤原 武男 (フジワラ タケオ) Fujiwara Takeo

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

国際健康推進医学分野 教授

・研究領域

虐待予防に関する研究、社会疫学、ライフコース疫学等。



【問い合わせ先】

＜研究に関すること＞

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

国際健康推進医学分野 氏名 藤原武男(フジワラタケオ)

TEL:03-5803- 5187 FAX:03-5803- 5190

E-mail: fujiwara.hlth@ tmd.ac.jp

＜報道に関すること＞

東京医科歯科大学 総務部総務秘書課広報係

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

TEL:03-5803-5833 FAX:03-5803-0272

E-mail: kouhou.adm@tmd.ac.jp